
飼い主の心得

莎月 双樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

飼い主の心得

【Nコード】

N7193X

【作者名】

莎月 双樹

【あらすじ】

9月の土曜の夕方、いつものように散歩に出ていたあたしが出くわした異世界トリップのお話。 ヤマ(場)無し&オチ無し

01 ほんやり散歩は危険でした（前書き）

- 1：少なくとも“あたし”について糖度はほぼゼロです。
- 2：使い古された設定かもしれませんが、内容は純粹に作者の逃避心あふれる妄想の結果となっております。
- 3：作品全体を通じて、主観及び個人的経験を基にした記述が多いです。

どうぞご了承ください。

01 ぼんやり散歩は危険でした

9月の土曜の午後6時すぎ。

いつものように散歩に出て、いつものコースを歩く。

いつもと変わらない日常のはずだったのに。

朝晩涼しくなったよねとか。過ごしやすくなってきたのはいいけど、この季節って短いんだよねとか。

他に人や車の通りが無いのを良いことに、ここ数年の初春や初秋に定番になったことを思いながらぼんやり歩いていたのが悪かったのか。

右手首にぐいっと引つ張られる力を感じてそちらを見れば、視線の先にはぼつかりと開いた真つ黒い“穴”。

マンホールの蓋が外れてる？ とっさに思ったものの、すぐに打ち消した。

だって、よく見りや電信柱と地面にまたがって開いてんだもの（んなマンホール無い無い）。
そんなヒラメキ&ツツコミの間も引つ張る力は弱まることなく続き。

いえね、一応踏ん張りましたよ。踏ん張ったんですけどね、いかんせん綱引きのスキルを持ってないあたしにや無理でした。（右腕も痛かったし。）

最後はスポンと穴に吸い込まれました。

「……………」
「……………」

ざわめきで気がついた。どうやら少し気を失っていたよう。

あたしでも気絶してるんだわ〜なんて、ちよつと感動。いや、自分にそんな可愛げがあるなんて、これっぽっちも思ってたなかつたんで。え、別問題？

「……………」

なんか固い床の上に突っ伏しているみたいである。とりあえずセルフチエーツク！

……引っ張られた右手首がちよつと疼くくらい。他に痛むところはなし。

と確認してみたところでゆっくりと起き上がってみる。いきなり立ち上がって立ち眩みおこしちゃマズイから、まだ座り込んだままね。

「……………」
「……………」

うわあお。

真っ先に視界に入ったのは、3mくらい離れて取り囲むように立つ人・ひと・ヒト。

しかもアレですよ、奥さん！（いや、特に誰ってわけじゃないけど。）

皆さんファンタジー（貫頭衣ってやつ？）系な衣装に、頭の上には獣耳ですよ！！

形は三角尖つたのから丸いので、大小&色は様々なケ・モ・ノ・ミ・ミ！！

でもって、人壁の向こうの石造りな壁の窓の向こうには、昇ったばかりなのか、おつきな青銀の月と小さな白い月。

あたしが煩惱獣萌えくな夢をみているんじゃないや、アレですか？ トリップってやつですか？

右手首もまだ痛むし、やっぱこれって現実よねえ。 え、あたしってば余裕すぎ？

ふっふっふ。アダルトチルドレン現役だった兄&姉を持ったおかげで、気がつけば“ライトノベル”なんて言葉ができる前からの初期作品が身近にあったこのあたし。召還・トリップ物なんて、これまで飽きるほど読みましたよっ！！（もちろん、リアルに起きるなんてコレっぽっちも思っちゃんかったケド。今でも読んでるケド。）

「白く麗しい・・・」

「・・・力に満ちている・・・」

と、そこでハタと気づく。

ところでコレって召還？ それとも落ち系トリップ？

ちよつと距離のあるところで踏ん張ったのに引き込まれたんだから落ち系とは思えないけれど。でも、「召還の儀式してましたー」なんて雰囲気でもないのよね、なんか。

そう、敢えて言うなら「集会やってたら急に部屋の中に（知らない&奇妙な格好の）人が出て来て遠巻きに見てる」みたいな？

ま、単なるハブニングじゃなけりゃ、何かしらここに来た意味ってあるんだろし 勇者？ 神子？ それとも今流行りの魔王？ 嫁ってことは無いと思うけど（年齢的に 痛！）。生け贄とかは却下ね（もしコレだったら速攻逃げる）。それとも……。

「よつこそ、我らがケンロウ国へ」

年の頃は20代後半の、一際背の高い男が進み出た。野生味の強い整った顔立ちに、後ろを長めに伸ばしたウルフカットの銀髪の上にピンと立つ三角の耳は 狼耳？

着ている服もさりげなく上等そうだし、こりゃテンプレの“若き王”ってヤツかいね？

あたしの観察対象のその男は、右手を胸に当て片膝をつくくと、

「一同、心より歓迎申し上げます。姫」

左手を、あたしの右側へと伸ばした。

その手の先を見れば、そこにはあたしと一緒に散歩に出ていた、愛犬の風花号（白の秋田犬、雌、生後11ヶ月）。

本命はそつちワシユかいっ！！

……あたし、たちばなで橘奏、（人類、女、アラサー）。
飼い犬のおまけで、異世界トリップしたようです。

01 ほんやり散歩は危険でした（後書き）

すみません、やっちゃいました。

書きかけの短編数編ぶつちぎつての連載投稿でございませう。

ラブ（ほぼ）ゼロの数編で終わる予定です。

お暇つぶしでご覧いただければ幸いです。

02 消えたら探すに決まっています

自分の人生初のトリップがまさかのペット巻き込まれたことに（あたしとしたことが）しばし呆然としたものの。

いやいや、一緒に散歩に出た時じゃなかったら、大事な家族がかっさらわれていたかもしれないと思い直す。

身臍かみほしつは承知で言うが、ふうちゃん（風花号 風花 ふうちゃん）は可愛い。頭のとっぺんから足の先まで、体毛はどこをとつても真っ白の中毛ふわふわで、日本犬の特徴であるクルンと巻いた尻尾はこれまたふっさふさ。丸っこい顔にやや丸みを帯びた三角の耳（この耳裏の毛が特に柔らかいって知ってます？）。黒に近い濃い茶の目はいつもウルウルで、その目でじっと見つめられて「遊んで？」なんて訴えられたら逆らえないんだからっ！！（和犬好きな方には理解していただけるはず！）

両親が相次いで病死して、年の離れた兄と姉もそれぞれ仕事の関係で遠くに居を構え疎遠になった後、縁あって生後2ヶ月で我が家に来たふうちゃんは、今の私にとって唯一の家族と言える存在だった。そんな彼女が急にいなくなってしまうたら。

もちろん探すに決まってる。抜け出してどこかで迷子になってるんじゃないかと、声を囁らして名前を呼んで。「謝礼します」って迷い犬のポスター作ってあちこち貼って。野犬に間違われて連れて行かれたんじゃないかって動物保護センターに問い合わせる。

自分が体験したんじゃないけりやあまさか異世界トリップだなんて思いもしないだろうから、心配して探して探して。でもきつと見つからなくて。

………仕事が手に着かなくなってクビになって路頭に迷うことになったらどーしてくれんのよ！ 今日日まよひペット養っていくのはそれなりに経済的基盤が要るんだからね！！

………

いやいやいかんいかん。二呼吸ばかりの間に不吉な想像しちゃったわ。

意識を現実（でいいんだよね？）に戻せば、イケメンの狼陛下（仮称）に手を差しのべられたふうちゃんは、警戒心を露わに立ち、しかし怖いのかさりげなく体の脇をあたしに押し付けてきている。

落ち着かせようと右手で背を撫でると、赤い首輪につながったりリードの鎖部分がジャラリと音を立てた。（ちなみにリードの先の持ち手・皮の輪っか部分に右手を通して散歩していたのである。これが引つ張られて痛かった。）

「なんとおいたわしい……」

「姫を鎖に繋ぐとは……」

そう大きくない音だったのだが、獣耳はよく聞こえるのか、鎖の音に皆さんご反応。空気にトゲトゲしいものが混じる。狼陛下を筆頭に、それまで空気状態だったあたしに、一斉に“敵意”のこもった視線が向けられた。

いやあ、さすがにこれはキツイわ。

ホールドアップしようかしら、と思ったあたしよりも先に反応したのはふうちゃん。あたしに向けられた敵意に対し、周囲の皆さんを敵認定したもよう。あたしの膝を跨ぐように前に出ると、体をあたしに押し付けながらも唸り声を上げる。まるで庇うように。

……こんな時に不謹慎かもしれないけど、この健気さ可愛いっ！
「愛おしさがこみ上げて後ろから襲おう　背中から抱きつこう
かと思っただじゃないの！！」

思わず顔がニマニマとなる私とは対照的に、救い出そうとした（
んだろうね、たぶん）相手に威嚇されて動揺する獣耳さんズ。

不謹慎で申し訳ないケド、いや〜、なんか優越感？　ほお〜ら、
アナタたちが仲良くしたいふうちゃんはあたしにラブなのよん
みたいなの？

うん、我ながらやっぱりイイ性格してます。

「このままでは埒があかぬ。“聖水”を持ってまいれ！」

そう叫んだのは、狼陛下の後ろにいた背の低い丸耳のおいちゃん。

……えー、タヌキさんかな？

あいかわらず警戒態勢のふうちゃんをドウドウと宥め（撫で）
ながら、とりあえず様子見です。……あたしへの敵意はともかく、
ふうちゃんを傷つけるようなコトはしなさそうなんで。

ものの5分と経たずに、下っ端っぽい人がガラス瓶のような物を
持ってきた。中には何か液体が入っているのが見て取れる。

瓶（仮）を受け取った狼陛下（仮称）は、フタをキュポン（あ
らいイ音）と開けると、

「姫、失礼いたします」

言うなり中身をふうちゃんに振りまいた。　距離があるのに見事
な狙いだね。

当然、ふうちゃんはビックリしていつそうあたしに体を押し付け
る。

「あらあら、ふうちゃん大丈夫　っう？」

量は多くなかったものの（小瓶だったし）、水（っぽいモ）をかけられてフル

フルと頭や耳をふるわせて振り払っていたふうちゃんが、急にうつすらと光りだした。全身を淡い光りが包み、それが少しずつ強くなつていくのを、あたしは心の中で「ふうちゃんが、ふうちゃんが光ったー！」とアルプスの少女の名ゼリフ風に叫びながら見ていた。

……やがて、その光が消えると。

あたしの膝を跨ぐように四つん這い状態の、女の子がそこに居た。こーれーはー。

どー考えてもー。

えー、皆さま（ いや、やっぱり誰につてわけじゃないんだけど）うちのワンコが人ひとつ娘こになったようです。

02 消えたら探すに決まっています（後書き）

犬が好きです。

日本犬好きです。柴や日本スピッツも良いですが、やっぱり秋田です

抱きつきがいのある大きいコが好みです。

洋犬ならシェパードとかアラスカンマムコートとか。

03 ウチのコが一番可愛いものです

……いや、周りの皆さんも獣耳の人の姿だから、お約束っちゃお約束なんだろうけど。

飼い主としちゃどうしたもんかいね？ モフモフ可愛いふうちゃん返せて抗議すべき？

とりあえず、この（おぜうさん）姿で四つん這いはマズイ気がしたので、ドッコイシヨと起こして座らせてから呼びかけてみた。

「え〜、ふうちゃん？」

ふうちゃんはいつものように「なあに？」ってな感じにこつちを見上げる。

年の頃は11、2歳くらい。顎よりちよい下で切りそろえた、内側から仄かに輝きを放つ純白の髪と、その上にちよんとのつてる秋田犬の耳。肌も白くて 青白いかじやなくて透明感のある白よ唇は艶のある桜色。左右対称の顔の半分くらいあるんじゃないかってくらいパツチリした、黒目がちな茶色い目がウルルンとしてあたしを見上げている。

か……っ可愛い。

ちなみに格好は白地に要所に赤を使った着物のような服を着ている（素っ裸じゃなくて良かったよ）。穴が開いてるのかお尻のここからはクルンと巻いたふさふさの尻尾が出ている。

なにこれかーわーいーいー！！

顔立ちも可愛いし格好も可愛いしあどけないサマも全部ぜーんぶ

っ！ 可愛いじゃないのさっ！！

さすがうちのふうちゃん！ ご近所さんからも「美犬びいけんになるわねえ」とか「きつともてて困るわよお」とか言われてたけど、今でこ
んだけ可愛くて綺麗なんだから、成犬せいじんしたら美犬びいけんでモテモテよっ！！
こんな可愛いコでおかーさん（ いつもはおねーちゃんだけど）
嬉しいわあ。

だーきーっーきーたーいー……という衝動を抑え、きよんとした
ままのふうちゃんの両手をそつと取る。

うっ、爪もピンクで可愛い。どこまで完璧なんだい、この子った
らっ！（ 親バカじゃないやい。）

「ほおら、ふうちゃん。おねーちゃんと一緒
軽く上下に振ってやる。」

「おねーちゃんと、いつしょ？」
「そうそう、見てごらん、今のふうちゃんはおねーちゃんと一緒だ
よっ？」

声も可愛けりゃ、ちよい舌つ足らずな言い方もかーわーいーいー
（ 繰り返すが親バカじゃない）。心の中で悶えながら、まだ自分
の“変身”に気づいてないふうちゃんに教える。

そこで初めて、あたしに握られている手＝自分みづかみの手＝人間の手に
なっていることに気づいたふうちゃん。じつと、まじまじと、不思
議そうに見て。それからそつとあたしから手を離して握ったり開い
たりして。

「おねーちゃんといっしょ
にこつと笑った。」

うおおう、なんですかこの可愛さは。おねーさんマジで鼻血噴く
かと思いましたよ。

理性が蜘蛛の糸よりも細くなってプツチン切れて抱き締めそうになったその時。

「白の姫」とその……付き人よ、もう良いだろうか」

何かを堪えたような抑えた声が割って入った。

おや、狼陛下下つたら空瓶握った腕に血管浮いてますよ。握りつぶすおつもりかな？

……そーいやすっかり忘れてたケド、外野さんがいっぱい居るんだった。（“付き人”ってあたしのことなんだろうけど、何て言おうか迷ったんだらうな、あの間は。）

たちまちほのぼの感が消え失せ、ふうちゃんも警戒モードに戻ってあたしに身を寄せる。

えーつと……。

「この子が落ち着かないみたいなんで、静かにお話できるトコに移りませんか？」

ここは大人なあたしのご提案させていただきました。

04 異種族カップルの事情を教えてくださいました(前書き)

時間が少し飛びます。

世界設定はかなり適当(別名:いい加減)です。

04 異種族カップルの事情を教えてくださいました

「姫…」

「や」

皆さま、お久しぶりです。飼い犬と一緒にトリップした人間の橋奏です。

こつちに来てから早いもので半月がたちました（元の世界ではど
んだけ経ってんだろね？）

「そう仰らずに…」

「や」

ここに来たあの日、別室に移って聞いたこと（説明者は狸宰相と狐侍きつじ）。
ここが犬狼国けんろうこくという、大陸で比較的北に位置する国であり、あた

したちは国王（狼陛下ろうてんのこと）の成人のお祝いの席のまっただ中に宙から湧いて出たらしい。ちなみに、この大陸では祖神おやがみ（祖先のことだろうと思う）を同じくする一族がまとまって国を作っており、名前から分かるようにこの国は犬科（あたしの理解で言えば）の人種（？）の国とのこと。……話のついでに猫科の国があるのか聞いてみたら、獅虎国しこというのがそれに当たるとのこと。まあ、猫じゃ強くなさそうだもんね。

「姫はこちらがお好きと伺いました」
「うっ」

で、うちのふうちゃんがかえらい歓迎された理由ってのがあって。
狼陛下下つてばご伴侶を迎えるお年頃だったんだけど、お嫁さん候補がいなかったらしい。いや、女性が極端に少ないとか、狼陛下がここの基準ですっごいブサイクとかじゃなくて。

なんか、この国の皆さんってば、月を信仰の対象としてて、んでもって身に纏う色が加護を表すっていう考え方から、王になれるのは月の色。最高位が二つの月が重なった白銀、次が青銀と白を持つ者（大抵が狼とか犬とか戦闘力の強い者に現れるらしい）なんだって。

それで言うと今の狼陛下はぶつちぎり最高の白銀の髪を持ち主で、力も歴代でトップクラス。そんな彼の花嫁として、白銀は無理にしても青銀か白を持つ適齢期の女性を捜したらしいのだが、ま〜これが見事にゼロ。

他国からも探してみたのか聞いてみたけれど、おやがみ祖神を異にする者同士の婚姻では出生率が極端に落ちるらしい。あ、ちなみに種族が異なる者同士の結婚で生まれた子供は、親のどちらかの種族になるってとも言われた。ライオンとトラのカップルでライガーが生まれるということはないらしい（ちょい残念）。

ぶいっ。

「くっ…！」

半月前の例のお祝いの席でも、

「このめでたい日に神々が陛下への花嫁でも遣わしてくれれば」

なんて冗談半分本気8割（合計がおかしいのは気にしない）で話していたところに、どこもかしこも真っ白な体毛のふうちゃんが出てきたもんだから、「こりゃもう陛下の嫁に違いな〜い！」って思っっちゃったらしいんだわ。

……うん、そんな事情があつたんなら皆様そう思うのしょうがないさね。ましてやその大切な“嫁様”に首輪だの鎖だのつけてたんだから、あたしが敵認定されたのだって、まあ納得。

最終的に、あたしがふうちゃんの保護者だつてことを理解してもらい　ふうちゃんがあたしから離れたがらなかつたもんで、ふうちゃん用に急遽準備された部屋（寝室の他に居間と簡易調理スペースとサニタリー設備付き）と一緒に寝起きしている。（狼皇帝陛下は不満たらたらのようなのだが。）

そんでもって、今はその居間（応接室も兼ねてます）なのだが。

「おねーちゃん、ごはんまだ？」

「姫はなぜその女ばかりっ！」

国王としての政務の合間にふうちゃんのご機嫌伺いに来ては、こうして振られ続けている狼陛下に睨まれております　なんか殺意こもってんじゃないかい？

……橘奏、生まれて初めて狼に睨まれた羊の気分を味わっております。

04 異種族カップルの事情を教えてくださいました(後書き)

視覚的には現在の狼陛下下の求愛は口 コンのようだと思いましたが、(ただでさえ相手にしてもらえてないのに)不憫なのでそういう属性は付いてないということをお願いします(笑)

05 実は犬嫌いなコでした（前書き）

我が家のワンコの体験を基に書いた内容となっております。

もちろん個体差がありますので、必ずこうなるものではないとご了承ください。

05 実は犬嫌いなコでした

あたしが居間のジャンボクッション 獣姿になった時のためか、置いてあるのは椅子じゃなくクッションだしテーブルも座卓の高さである に座った途端に、腰に腕を回してしがみついてくるふうちゃん。頭をなでなでしてやると、嬉しそうに目を細める。

くう〜っ、今日も可愛いじゃないか！

それにまた、この髪の手触りがね〜。

髪型がストレートなもんだからサラツとしてるのかなと思いきや、わんこ姿の頭を撫でた時のような微モフツとした手触り。……もしかしてダブルコートかい？ってな触り心地ですよ、旦那っ！！）いや、ホントに誰ってワケじゃないけど。）

腸の弱いふうちゃんのために作った茹でた鳥肉を冷めやすいように裂いてやりながらチラリと横目で見れば、お向かいのクッション（この世界では“椅子”と呼ぶべきか？）に座っているのは若き国王のヴァルスロット陛下（狼陛下のこと）。

だからさ、あんたの愛しいふうちゃん 色が云々というよりホントに一目惚れらしい があたしにベツタリなのが気に入らないのは分かるけど、そんな態度だといつまで経ってもふうちゃんは懐かないよ？……と心の中でだけご忠告。

何を隠そう、うちのふうちゃんは犬嫌い。

秋田犬という日本犬で唯一の大型犬種のふうちゃん。生後2ヶ月でうちに来てすぐと、さらに1月後の予防接種を終え、外にお散歩に出せるようになった時には、か〜な〜り、大きかった。もう、そ

こいらの小型犬を見下ろすくらいに。

んでもって、数年前のブームもあって、そんな小型犬ばかりだったご町内。可哀想なふうちゃんは、遊びたいやんちゃ盛りだということに、チワワには吠えさせてられ、ミニチュアダックスフンドには唸られ、コーギーには避けられ、シエルティには無視され……散歩途中で会う犬たちに悉く遊んでもらえなかった。

あたしが遊んでやるって言ったって、タオルの引っぱりあいやボール投げが精一杯。（ちなみにボールは“取ってこい”ではなく“くわえて逃げる”だし、実はフリスビーも教えようとしたがバキバキに噛み砕くのであきらめた。）

こうした結果、ふうちゃんは7ヶ月くらいになった頃には、犬同士の遊び方を知らない、何より犬に遊んでもらおうとしない、犬嫌いのわんこになってしまったのである。

さらに更に。

和犬好きな方はご承知の通り、洋犬に比べて“飼い主への忠節心が強い”という特性も相まって。

今のふうちゃんはすっかり“他人（犬含む）にツン、身内あたしにデレ”という変形ツンデレなおせうさん。（小さい頃からかまってもらったご近所さんには友好的態度を示すが、デレまでいかないのが飼い主にとってはまた心憎いっ！）

そんなふうちゃんにとってはこのあたしが唯一の“群れ”の仲間で、且つリーダー（権勢症候群にならないよう頑張ったさね）。そんなあたしにケンカを売るということは、ふうちゃんにケンカを売っているということ。逆に言えば、ふうちゃんを射止めたかっいたらまずあたしを懐柔しなければならぬのだが。

気づいてないんだろうねえ、この狼陛下は。（こっちでも“ナント力は盲目”って表現があるのかね？）

06 愛を感じると嬉しいものです

ふうちゃんを見る時は優しく目になって狼耳もへにやっつるのに、あたしに視線を向けると睨み殺さんばかりに**まなじり**あがるわ耳もピンとなるわで……めっちゃわかりやすいわ、狼陛下。

恋敵（あたしのことだろな、やっぱし）憎しなのはわかるけどさ、そんな感情ダダ漏れで一国の王様なんてやっつられるのかねえ。い・ち・お・う、うちの可愛いふうちゃんへの求婚者なワケだから？ まだ認めたわけではないですけども？ 心配はさせていただきますよ？

周りはどう思ってるんだろ？と思つて狼陛下の後ろに立つ狐侍従外見30ちよいくらい、あたしがちっちゃい頃流行つた少年誌原作のアニメに出てくる妖狐のよう をチラツと見てみると。

うわっ！ これぞ！つていうくらい「生温か〜い」視線&口元微笑みで見たらっしやっつた。思わず視線があらぬ方向に逃げちゃいましたよ。

ありゃ、状況わかつて楽しんでるねえ。……うん、さすが狐だ。

いや、まあ、あたしだつてもとも狼は好きだし？ ビシバシ向けてくる敵意さえなけりやデレてるサマは可愛いんだけど？

だかしかあし！ むしつて冷ましたゴハンの鳥肉をはむはむと食べているふうちゃんには敵わないさね！！（しつっこく言っけど親バカじゃないっす！）

思わず頭をナデナデして可愛いお耳をつまんでマツサージ。もちろん、常日頃のスキンシップの賜物で、ふうちゃんは嫌がりませんよ？

うおおう、狼陛下からの殺意が3割増しですよ、旦那）モ

チロンそんな相手いないけど)。なんかココまで黒いオーラを出されると国王サマじゃなくて魔王サマですな。

ふうちゃんの頭を撫でる手はそのままに、狼陛下がどこまで禍々しくなるか観察していると、いつの間にか食事を終えたふうちゃんがあたしの腰に手を回してしがみついていた。おっと、集中してないのに気が付かれちゃったかね。

苦笑しながらあたしも抱きしめようとすると。

「おねーちゃんはおねーちゃんの！」

狼陛下を睨んでの、イキナリの「あたしの」発言。

あらあらふうちゃん？ ひょっとしてヤ・キ・モ・チかな？

まったくもう、どこまでかーいーんだか、このコはっ！

抱きしめてかいぐりかいぐりしながら、さて狼陛下の反応はと見ると。

お〜お〜、狼^{うつた}えとる狼^{うつた}えとる。(「な…っ」だの「ちが…っ」

だの、ちゃんと言葉になつてないよ)、陛下。(

自分がしあわせさんなものだから、さすがに狼陛下が可愛そうになつて？(勝者の余裕つてやつ?)

「違つよ、ふうちゃん。陛下はね、ふうちゃんが(ここ強調)、おねーちゃんとはかり仲良くするからヤキモチ妬いたんだよ？」

フオローをしてあげたあたし。で・す・がつ!!

「ふうちゃんはおねーちゃんの！ だから仲良くしていいの！」

ちゅどー……………ん!!!

な・ん・で・す・とあー…っ！ 「あたしはアナタのもの」発言キマシター…っ!!

アタシの腰に回した腕をさらにギュツとして。うるるんつとした濃い茶の瞳で見上げて。

あまりの可愛さの破壊力に、ええ、もう糸がプチッと切れましたよ。

「なんって可愛いんだっ！ 絶対嫁にはやらーん！」

はい、思わず出ました親父発言。

06 愛を感じると嬉しいものです（後書き）

飼い主さんがちゃんとご自分を上位者として認識されていれば大丈夫ですが、そうでない方が食事中のワンコに手を出すと噛まれる恐れがあります。ご注意ください。

狐侍従のイメージは（安易ですが）、幽 白書の蔵 さんでお願いいたします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7193x/>

飼い主の心得

2011年10月21日08時12分発行